

「見上げてごらん、夜の星を」ではなく「見上げてごらん、空飛ぶミサイルを」、彼の戦場から住宅地・発電所まで、さらに隣国にも。こちらも隣の国から
11月9日のゼミは、芦田文夫『資本に対抗する民主主義』Ⅲ部「21世紀社会主義」と自由・平等・民主主義論の1章「市場経済と自由論」・2章「市場経済と平等論」を高田の報告で行いました。1章では、ポランニーを取り上げて、積極的自由と消極的自由という2つの概念で、1920年代・1930年代を考察し、バーリンと対比しながらポランニーの市場経済論が疎外論・物象化論という商品論次元で展開されている。2章では、センの潜在能力に自立した個人のアソシエーションを平等論の出発点とし、それに対してマクファーソンの潜在諸力概念で労働・生活手段の問題を取り上げ、市場経済化を補う生活・福祉、さらに社会主義と市場経済の現実的展開・具体化、労働権・生存権・社会権の確立を主張する。報告者からは具体化と言いながら概念の展開を行い具体化が書かれていない、市場経済と社会主義との関係、20世紀現存「社会主義」への言及・分析が欲しいと締めくくった。討論では、ここでの対象である「自由」と「民主主義」はそもそも別のカテゴリーであり、起源が異なっている。自由と共同・自由と個人との関係はどうか。ここではマクファーソンの『所有的個人主義の政治理論』1962年と『民主主義理論』1973年を取り上げているが、彼の『自由民主主義は生き残れるか』1977年がより重要ではないか。具体化と言いながら、なぜポランニーから始めるのか、むしろ資本＝労働関係が問題で、アソシエーション論に引っ張られている。21世紀社会主義ということではどうか。マルクス『資本論』では二重の自由が論じられるが、抑圧からの自由、所有の自由、選択の自由という観点が考えられる。生活協同組合などのアソシエーションの経営主体の問題では、パーリ&ミーンズによる資本家と経営者の問題点を再考すべきで、改訳本(北海道大学出版会 2014年)が出てその解題が良い。会場出席は小野さん・高島さん・川口さん・松村さん・斎藤さん・高田、オンライン参加は竹内さん・後藤さん・英国から松本朗さんの9名でした。

* 11月23日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 884 7334 4220 パスコード: 008081

* 芦田本は12月で終わる予定、次のテキストの推薦本を募集・提案を。

***** ゼミ日程 *****

- 11月23日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』3巻7編49章 生産過程の分析によせて 報告松村さん
12月14日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
芦田文夫『資本に対抗する民主主義』Ⅲ部 3・4章 報告 高島さん
12月28日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』3巻7編50章 競争の外観 報告者未定
その後 2023/1/12, 1/26, 2/9, 2/23, 3/9, 3/23